

第3学年1組 国語科学習指導案

令和6年12月10日(火) 第5校時

場所 3年1組教室

授業者 教諭 加藤 史帆

学習者 男子15名 女子16名

1 単元名 登場人物のせいかくを考えながら読もう

教材名 「モチモチの木」

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は読書が好きという児童が70%と多い。毎週の図書時間を楽しみにしている児童が多く、読み聞かせボランティアの朝読書や新しい教科書教材の物語の話をとても楽しみにしている。物語文を読み、主人公の気持ちを考えたり、本の世界に没頭したりして普段感じられない人の立場になって考えることで、心が豊かになることを感じている児童も少なくない。また、1学期に学習した「紙ひこうき、きみへ」の物語文では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像した。登場人物の行動や会話文、気持ちを表す言葉、持ち物や道具などから登場人物の気持ちの変化の分かる部分に線を引き、意見を交流した。

②集積したデータから分かる児童の実態

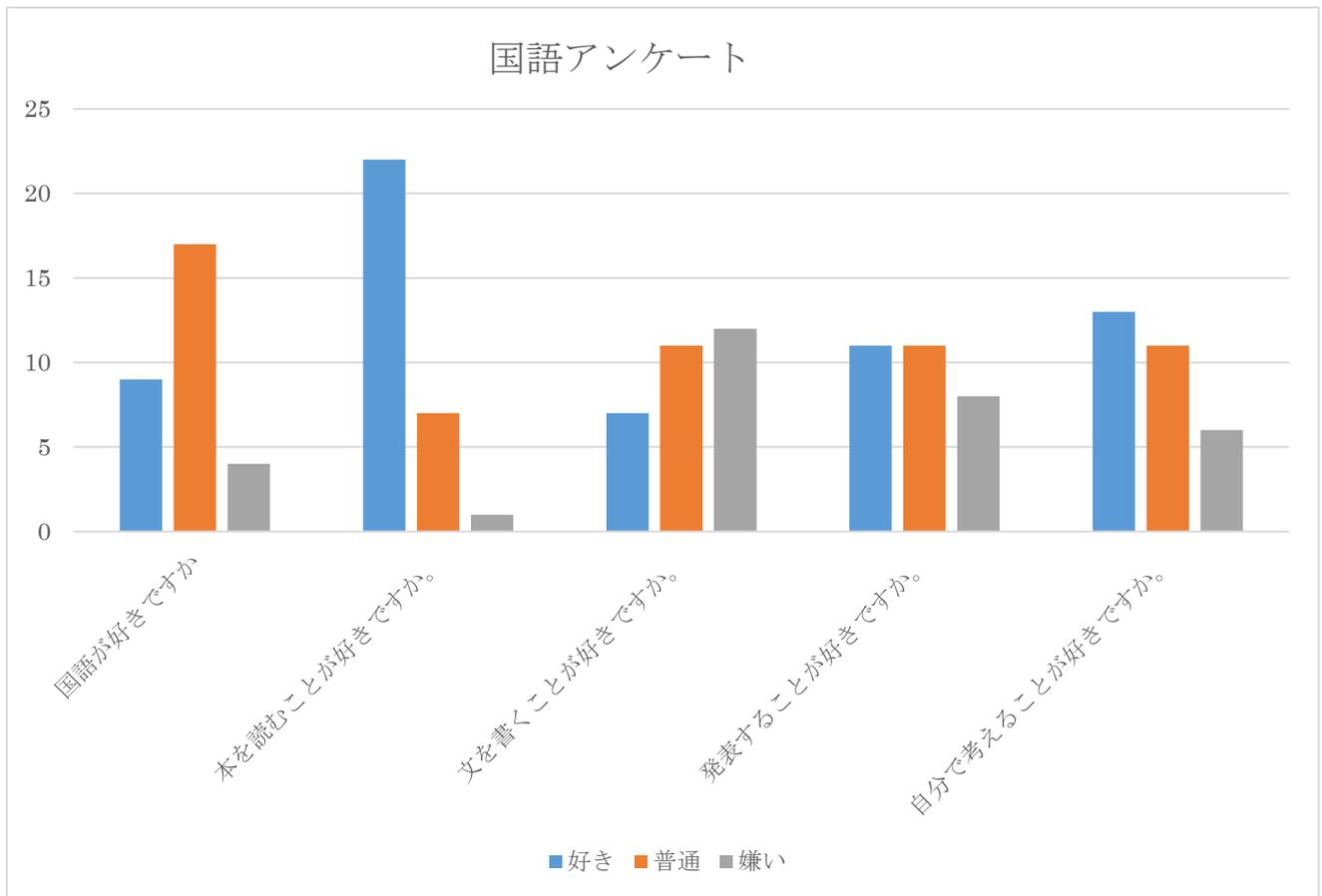
1学期に実施したクラス独自の国語科アンケートから読書は好きという児童が多いものの、自分の考えを文に書き表すことに関しては苦手意識をもっている児童が40%ほどいることが分かった。また、自分で考え発表することに関して苦手意識をもっている児童もクラスの30%近くいた。本を読むことは好きだが、読んだ感想や学んだこと、感じたことを自分の言葉で表現することに苦手意識をもっていることが分かる。

さらに、本校の令和6年度全国学力・学習調査、国語科では6年生の実態として「A 話すこと・聞くこと」の問題文やメモを読み取ることに課題が見られた。また、細かな読み取りや語句の読み取りが不十分であった。細かい項目では「日常的に読書親しみ読書が自分の考えを広げることに気付くことができるかどうか」を試す問題に対して正答率が全国・埼玉県に比べて低く、無回答率も高くなってしまっていた。このことは、高学年になるまでの読書量の不足、習得している語彙の少なさを表していると考えた。そこで、5月からクラスで読書貯金として読書頑張りカードに取り組み、読書に親しむ活動をしてきた。2学期には、今までよりも読書が好きになったという児童が増えた。児童が日頃から主体的に読書に親しみ、自ら新しい語彙の習得を進んで行えるようにしていきたい。

日常の実践としては、毎朝スピーチを実践し発表に対しての苦手意識を減らすようにした。1年間スピーチのテーマは変えず少しずつレベルを上げていくようにした。最初は原稿を見ての発表、次は原稿を暗記しての発表、友達からの質問を受け付けたり、自分が調べた根拠をはっきりさせたりした発表。さらに、実物を見せながらの発表というように変化をさせていった。

また、書く活動として毎週金曜日の宿題に日記を取り入れ、そこに書く内容として「おおきいみかん」を入れていくようにさせた。「思ったこと、面白いこと、聞いたこと、言ったこと、見たこと、感じたこと、考えたこと」を入れることで魅力的な文になることを実感し、日ごろから文章を書く時の習慣にした。習慣にすることで文を書くことへの苦手意識を減らし自分の考えを書くことへの自信につなげていくことができた。自分の考えを書き表すことへの苦手を克服し、さらには、自分の考えを発表することで話す力や聞く力にもつなげて

いきたい。



(2) 教材観

本教材では、学習指導要領第3学年及び第4学年の〔思考力、判断力、表現力等・C読むこと(1)エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。〕を受けて豆太の気持ちの変化について考える。昼間の場面と夜の場面のモチモチの木に対する豆太の態度は対照的であるが、それだけでなく場面の変化を読み取り、物語のはじめと終わりの豆太の気持ちの変化を考えたい。豆太の心情の変化を考える上で場面の変化に気付き、情景からも考えるようにしたい。自分の考えの根拠にはどの叙述を基にしたのかが相手にしっかり伝わるような話し合い活動をさせ、グループでの話し合いから深い読みができるようにしていきたい。また、考えを交流する中で、一人ひとりの感じ方には違いがあることにも気が付けるようにしたい。

(3) 指導観

<この単元で身に付けさせたい力>

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し語彙を豊かにすること。
- ・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、書いて相手に伝えること。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、発表すること。

これらの力を身に付けさせるために、「クラスのミニビブリオバトル発表大会をしよう」という言語活動を設定した。そこで、次のことに配慮して指導していきたい。

第一次では、導入で、『先生のビブリオバトル』を紹介する。教師が、今まで自分が読んだ本の中で1冊紹介したい本を1冊選び、教師自らがバトラーになって紹介する。子どもたちは「どの本が1冊読みたくなったか」で紹介された本1冊を選び、「1冊多く選ばれた本がチャンプ本」になるということを知り、先生たちのミニビブリオバトルのチャンプ本を決める。実際に自分たちも参加することで見通しをもたせ、意欲を高めさせる。そして最後には1学期から自分が読書貯金をしてきた本で、クラスのミニビブリオバトル発表大会を行うという目標をもたせる。

第二次では、教科書教材「モチモチの木」を読み、登場人物のせいかくを考えながら読む。登場人物の会話や行動に着目して読み、登場人物の気持ちの変化や性格について想像する。中心人物である豆太の性格の変容について叙述を基に考え、クラスで考えを交流する。登場人物の性格が表れているところに線を引き、主人公の性格が大きく変わったところでは何があったのか、どのように変わったのか分かるところに色を変えて線を引き、自分でワークシートに考えを書く際に分かりやすくした。

第三次では、「モチモチの木」で学習したことを活用して、自分で選んだ本の紹介文を作成する。気持ちや性格を表す語句を使いながらなぜこの本を紹介したいのかが分かる魅力ある紹介文にする。「あらすじ」「心に残ったところ」「本から学んだこと」「主人公にかけたい言葉」など入れるようにする。最後には、どの本を読んでもよかったのかという「クラスのビブリオバトルをしよう」という活動を行い読書への意欲を高めさせたい。

3 「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の手立て

学習の見通しをもったり自分の考えをもったりし、主体的に取り組めるようにするための工夫

手立て①教師によるミニビブリオバトルのモデル提示

初めて取り組む、ミニビブリオバトルの楽しさが伝わるように、単元の導入でモデルを提示し、今後自分たちが何のために読むのか、目的意識・相手意識をもてるようにする。

対話的な学びとなるための工夫

手立て②グループでの発表メモ作りの交流

自分の考えを記した発表メモをグループで交流し、伝えたいことが相手に伝わる内容になっているのか互いにアドバイスし合い、実際の発表に活かす活動を設定する。

深い学びとなるための工夫

手立て③物語文の色分け

教科書教材の「モチモチの木」の全文に、豆太の性格が分かる所に赤線を引き、情景を表す言葉には緑色で線を引く。その他の登場人物は青線を引き、豆太の変容が見られるところは赤の波線で線を引く。線を引いた所の叙述から何が読み取れるのかをまず、一人で考え、友達と話し合い、考えの共有をする。

手立て④グループでの話し合い

文章を読み、まず個人で不思議なところや疑問を見つけ、次にグループで友達との共通点や差異点を考え発表する。

個別最適な学び・協働的な学びとなるための工夫

手立て⑤付箋による考えの交流

登場人物の発言や行動の叙述から読み取れることを、一人ひとりが付箋で書き、グループで意見交流、クラス全体に発表し、考えを深める。

書く力を高めるための工夫

手立て⑥主人公の心情の変化に気が付くようなワークシートの活用

主人公の気持ちが表れている叙述を見つけ、場面ごとの主人公の心情の変化について書き表すことができるようにする。主人公の心情の変化を可視化するようにする。

4 単元の目標

- (1) 教科書教材や並行読書で読んだ本に使われている言葉の工夫に着目し、気持ちや性格を表す語句の量を増やすことができる。 【知識及び技能】(1)オ
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格について、会話や地の文、場面の变化、情景を基に考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ
- (3) 読教科書教材や並行読書で読んだ本の理解したことに対して感想や考えをもつことができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)オ
- (4) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方には違いがあることに気付くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ
- (5) 進んで読書をし、主人公の気持ちの変化やあらすじ、心に残ったところを書こうとしたり、互いに伝え合おうとしたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語活動 物語を読み、登場人物やその性格、あらすじ、心に残った場面をビブリオバトルを通して伝える活動 学習指導要領との関連 (C読むこと 言語活動例 イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動)		
① 教科書教材や並行読書で読んだ本に使われている言葉の工夫に着目し、気持ちや性格を表す語句の量を増やしている。 (1)オ	① 登場人物の気持ちの変化や性格について、会話や地の文、場面の变化、情景を基に考えている。(C(1)エ) ② 教科書教材や並行読書で読んだ本の理解したことに対して感想や考えをもっている。 (C(1)オ) ③ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方には違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	① 進んで読書をし、主人公の気持ちの変化やあらすじ、心に残ったところを書こうとしたり、互いに伝え合おうとしたりしている。

5 指導の計画（12時間扱い）

	時	○学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ☆評価
第一 次		クラスのミニビブリオバトル発表大会をしよう！		
	1	○教師によるビブリオバトルを見る。 ○学習の見通しをもつ。	・学習課題の設定	手立て①教師によるミニビブリオバトルのモデル提示 ○1 番読みたくなった本がチャンプ本となることをおさえる ○教師のモデルを見せることで実際にやってみたいという意欲を高める。 ☆学① ・学習課題を理解し、見通しをもって学習に参加している。 ○第3次でビブリオバトルするために並行読書をするのを伝える。 ○1 学期から行っている読書貯金をした本の中から紹介したい本を1冊決めるよう伝える。 ☆知・技① ・言葉の工夫に着目し、気持ちや性格を表す語句の量を増やしている。
2	○学習計画を立てる。 ○並行読書で読書貯金する。			
第二 次	3	○豆太を「おくびょう」だと言っているのは誰かを考える。	・言葉の工夫 ・気持ちや性格を表す語句 ・語り手 ・場面の移り変わり ・地の文 ・会話文	手立て③物語文の色分け 手立て④グループでの話合い ○場面分けをし、登場人物が誰なのか、どんな話だったのか問いかける。 ○語り手が言っていることに気付くよう助言する。 ○表にまとめる時には叙述を省略して引用してもよいことを伝える。 ☆思考・判断・表現① ・登場人物の気持ちの変化や性格について会話や地の文、場面の变化、情景を基に考えている。 ○場面によって豆太の気持ちが変容し、行動に変化が見られるところに色を変えて線を引き、考えたことをワークシートに書くよう助言する。
	4			
	5	○豆太の行動や会話を通して考えた、豆太の性格について自分の考えをまとめる。	・気持ちや性格を表す語句 ・情景	

	6	○豆太の性格について自分の考えをもとに話し合う。	・登場人物の気持ちや行動の変化が表れている言葉	○豆太の性格を表している叙述の「同じ叙述を選んだ人との交流」「違う叙述を選んだ人との交流」の両方を行い、一人一人の着目する叙述の違いがあることに気付かせる。
	7	○豆太の性格は変わったのか考え、話し合う。	・意見や感想の共有	手立て⑤付箋による考えの交流
	8		・一人一人の感じ方の違い	☆ 思考・判断・表現 ③ ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方には違いがあることに気付いている
第三次	9	○自分が選んだ本の主人公について考えをまとめる。	・幅広く読書すること	☆思考・判断・表現 ②
	10	○発表メモをグループで交流し合う	・感想や考えをもち、書き表すこと	・読んだ本の理解したことに対して感想や考えをもっている。
	11	○各グループでクラスのビブリオバトル大会に向けた班の代表の1冊を選ぶ。	・情景 ・登場人物の気持ちの変化や性格 ・考えの発表 ・感じ方の違いに気付くこと ・思いや考えを伝え合うこと	○様子や行動、気持ちを表す言葉の語句の量を増やし、メモ作りで書くことができるようにする。 ○どうしたら、魅力的な発表ができるか考えてメモを話す順番を工夫して考えさせる。 手立て②グループでの発表メモ作りの発表
	12	○クラスでビブリオバトル大会を行い、クラスのチャンプ本を決める。		○バトラー（発表者）はオーディエンス（聴衆）の表情や反応に対して発表の工夫ができるようにする。また、オーディエンスからの質問に応えられるようにあらかじめバトラーはさらに詳しい説明ができるようにしておく。 ☆ 思考・判断・表現 ③ ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方には違いがあることに気付いている ○各班の代表1名がバトラーとなり、クラスのチャンプ本を決めるようにする。 ☆主体的に学習に取り組む態度① ・進んで読書をし、互いに考えたことを共有しようとしている。

6 本時の学習指導 (11/12 時間)

(1) 目標

- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し一人ひとりの感じ方には違いがあることに気付いている。

(思考・判断・表現)

(2) 展開

学習活動	学習内容	・指導上の留意点◎支援 ☆評価 (評価方法)	時間
1 前時の振り返りをし、本時の課題を確認する。	・前時の学習内容	・ビブリオバトルのルールの確認	2
クラスの「ミニビブリオバトル発表大会」をしよう！			
2 各班でバトラーが発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の移り変わり ・主人公の性格が分かる表現 ・会話文 ・行動の変化 ・情景 ・考えの共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者のよかったところを考えながら聴くように助言する。 ・面白いところ、魅力的な登場人物、自分との比較、読み手をひきつける工夫が入っているかの観点で聴くように助言する。 ・よかったところを付箋に書いて渡すようにさせる。 <p>手立て⑤付箋による考えの交流</p> <p>☆文章を読んで感じたことや考えたことを共有し一人ひとりの感じ方には違いがあることに気付いている。【思考・判断・表現】</p>	30
3 班の中で代表の本1冊を決める。	・友達の本の意見		2
4 選ばれた班の本の紹介をする。			5
5 本時の振り返りをする。	・自己の学習の振り返り	・次回の授業でクラスのチャンプ本を決めることを伝え、意欲をもたせる。	5
6 次回の予告を聞く。	・次回の学習活動の予告		1

7 板書計画



タイマー

★各班の本の紹介の付箋

オーディエンスの聴き方

バトラーの話し方

『ミニビブリオ発表大会』をしよう！
 *自分のとっておきの本を紹介しよう